

初台リハビリテーション病院

「東京都優良調理師に対する知事賞」を受賞しました

栄養部の高山芳治料理長が2019年度『東京都優良調理師に対する知事賞』を受賞しました。この賞は東京都福祉保健局知事名により、都民の保健衛生に貢献した調理師に対し贈呈されるもので、公衆衛生の増進を図ることを目的とされています。受賞した高山料理長からは「食事に力を入れられる当院の環境があったからこそ頂けた賞だと思います。今後も毎日のリハビリの中で元気が出るようなお食事を届けられるよう栄養部一同頑張っていきます!」とコメントを頂きました。



船橋市立リハビリテーション病院

桜の季節

季節が変わり、桜の季節となりました。当院の敷地内には多数の桜の木があり、満開になると近隣からわざわざ見学に来てくださるほどの絶景となります。

敷地内にはその他にも様々な木々や植物が植えてあります。今年度は景観をより良くし、皆さまの癒しにつながるよう植栽管理にも力をいれていく予定です。これからの変化を楽しみにお待ちしております。



船橋市リハビリセンター

地域連携推進委員会 「だよりプロジェクト」紹介

船橋市リハビリセンターの地域連携推進委員会では、年4回、刊行物「船橋市リハビリセンターだより」を発行しております。

石原センター長のリーダーシップのもと、「だよりプロジェクト」と冠して、各事業からメンバーが集まり、お昼にランチョン形式で打ち合わせをしながら、センターの紹介や活動報告、地域の医療機関の紹介や利用者さまの声など様々な情報を掲載しております。



在宅総合ケアセンター元浅草

手作りマスクの作成に取り組む

通所リハビリテーション半日コースをご利用の皆さまと、手作りマスクの作成に取り組んでいます。新型コロナウィルスの影響でマスク不足の今、繰り返し使用できるガーゼのマスクは貴重な物であり、更に経済的です。

1人で挑戦される方、2人一組になり、ガーゼを抑える方と、針を通す方に役割を分担して作業を進める方などやり方はそれぞれですが、皆さま一生懸命に楽しく取り組んでいただきました。



在宅総合ケアセンター成城

「ゴルフサロン成城」の開催

在宅総合ケアセンター成城を利用されている大原隆氏が開催する「ゴルフサロン成城」の活動に、当センターからも定期的に参加させていただいています。参加者は7名~8名で、今回はゴルフの永遠の悩みであるパターについてレッスンをしていただきました。

レッスンpointは、①soft grip(グリップはやさしく) ②sure hit point(芯で) ③straight ball(真っ直ぐ)です。200yardも飛ばしても1打。1yard打っても1打。ゴルフが好きな方はご参考にしてください。



新入職員への期待



会長 石川 誠

新入職員の皆さま、世界中が新型コロナウイルスと戦っている最中に入職となつてしまい、歓迎祝賀会もできずに残念ですが、入職おめでとうございます。

医療法人輝生会は創設から18年が経過し毎年4月に100名前後の新人を迎えてきましたが、今年は128名とい

う大部隊となりました。医療法人輝生会の使命を一言で表現すれば、「寝たきりにしない、寝かせきりにしない医療サービスの提供」です。そのために当法人は職種間の壁をなくし、各職種が対等な立場で強力なチームを組んでサービス提供することに努力しています。

その実践のため当法人には、他の医療機関とは異なる特徴があります。全員が同じユニフォームを着て、お互いを「〇〇さん」と呼び合うルールがその代表ですが、他にも細かなルールが多数存在します。リハビリテーション医療は、医師、看護師、介護福祉士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、義肢装具士、社会福祉士、薬剤師、臨床検査技師、放射線技師、管理栄養士、栄養士、調理師、調理員、歯科医師、歯科衛生士、介護支援専門員、医療事務専門職など他の医療サービスより多種類の専門職によりサービス提供することから、チームが重要となるのです。昨年のラグビーワールドカップにおける日本の活躍は記憶に新しいと思いますが、小生は日本代表チームの「ONE・TEAM」に多くの学びがあると考えています。また、当法人の業務は、第1に患者さま・障がいをもつ方々への直接的リハビリテーションサービスの提供ですが、第2に地域社会に対するアプローチも重視しています。障がいをもつ方々を優しく包み込める地域社会へと変化するように支援することです。新入職員の方々が、当法人の風土に慣れてチームの一員として活躍することを期待しています。



理事長 水間 正澄

新入職員のみなさま、入職おめでとうございます。心からお慶び申し上げます。

皆さまは、社会人そして医療人としての一歩を歩み始める方もいれば、すでに医療人としての経験を積まれている方もいらっしゃると思いますが、新しい

職場であることには変わりありません。同期に入職された皆さまが、少しでも早く職場に溶け込んでいただきそれぞれの立場から、患者さま利用者さまのために力を発揮されることを願っております。

医療法人社団輝生会は、石川誠会長がリハビリテーション医療への様々な思いをこめて2002年に設立されました。以来、私たちは「地域に暮らす人々が生き生きと輝きをもって生活し続けることができるように」という使命を胸に、回復期リハビリテーション病棟や在宅総合ケアセンター等での医療活動さらには各拠点を中心とした地域リハビリテーション活動などに精力的に取り組んでまいりました。

法人事業の三本柱は年々進化しておりますが、回復期リハビリテーション病棟においてはさらなる「高い品質」の追求、在宅総合ケア体制では特色を持った在宅ケアの追求、地域包括ケアの推進では地域の実情に応じた地域包括ケアの追求を掲げて、更なる質の向上を目指しているところです。当法人ではこのような活動を推進するために、すべての職員がリハビリテーションチームの一員であるとの考えに基づき多職種協働によるチームアプローチの進化を図っております。今後もチーム力の醸成を目指し、教育研修局を中心とした人材育成の取り組みを続けてまいります。

新入職員の皆さまが輝生会の理念の下に、質の高いリハビリテーション医療を提供するチームの大きな力となつただけことを期待しております。

季刊情報誌「輝NET」 編集・発行 医療法人社団 輝生会 本部/〒110-0015 東京都台東区東上野1-28-9 5F <http://www.kiseikai-reha.com>

初台リハビリテーション病院 〒151-0071 東京都渋谷区本町3-53-3 TEL.03-5365-8500 <http://www.hatsudai-reha.or.jp>
 船橋市立リハビリテーション病院 〒273-0866 千葉県船橋市夏見台4-26-1 TEL.047-439-1200 <http://www.funabashi-reha.com>
 船橋市リハビリセンター 〒274-0822 千葉県船橋市飯山満町2-519-3 TEL.047-468-2001 <http://www.funabashi-rehacen.com>
 在宅総合ケアセンター元浅草 〒111-0041 東京都台東区元浅草1-6-17 TEL.03-5828-8031 <http://www.motoasakusa-reha.com>
 在宅総合ケアセンター成城 〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷3-8-7 TEL.03-5429-2292 <http://www.seijo-reha.com>

本誌へのご意見ご要望はメールにてお寄せください。 contact@kiseikai-reha.com

輝生会の
基本理念と方針

■「人間の尊厳」の保持

■「主体性・自己決定権」の尊重

■「地域リハビリテーション」の推進

■「ノーマライゼーション」の実現

■「情報」の開示

輝生会における
患者さまの権利

■ 人権を尊重される権利

■ 自分の診療の情報や記録を知り、求める権利

■ 最善の医療を受ける権利

■ 自らの意思で選択・決定する権利

■ プライバシーの保護を求める権利

輝生会新任サブマネジャー研修を終えて

2020年3月2日(月)に新任サブマネジャー(以下、サブマネ)研修が開催されました。サブマネとは、当法人において一般の会社という主任的役割を担う立場の名称になります。当法人では、サブマネを法人の中核をなす大変重要な立場と考えています。新任サブマネ研修は、その導入研修的位置づけとし、2020年4月からサブマネとして現場に出る前にその役割をしっかりと理解してもらい、心構えをしてもらうことを大きな目的として実施しています。今年度も無事に終了をすることができました。ここに研修の様子をご紹介します。

今年度の参加者は24名であり、職種別の内訳では看護師:3名、介護福祉士:1名、理学療法士:7名、作業療法士:

6名、言語聴覚士:1名、社会福祉士:1名、栄養士:2名、薬剤師:1名、事務:2名であり、所属拠点別では、初台リハビリテーション病院:10名、船橋市立リハビリテーション病院:11名、在宅総合ケアセンター元浅草:1名、船橋市リハビリセンター:1名、本部:1名となっています。

本来であれば、例年一同に会して開催することとしますが、今年度は新型コロナウイルスの影響を鑑みて、TV会議システムを利用した分散開催としました。

参加者を初台リハビリテーション病院と船橋市立リハビリテーション病院に分散して、本部から会長、理事長、局長講演を配信した3元中継での開催方法としました(写真1、2)。

研修目標と内容

本研修の具体的な目標は、

- 1) 実際にサブマネが行っている業務について知る
- 2) 輝生会のサブマネとして期待されている役割を知る
- 3) 人事考課について概要を知り、事例を用いて考課を行う

こととしています。

研修形式は、大きく講義やグループワークで構成されています。講義については、石川会長から輝生会のこれまでの歴史や成り立ちを、水間理事長からはこれからの輝生会というテーマで理念に基づいた3大事業がわかりやすく示されました。講演後に会長・理事長に対しての質疑応答場面も持ち、活発な意見交換が行われました。その後、各局長の立場から「サブマネに伝えたいこと」と題した講演がありました。



写真1 船橋市立リハビリテーション病院の研修風景 (本部からの会長講演を聴講)



写真2 初台リハビリテーション病院の研修風景 (本部、初台、船橋の3元中継で理事長と会長への質疑応答場面)

森本教育研修局長からはサブマネとしての役割や部下の教育などを、大川リハ・ケア局長からはリーダーとしての理論やこれまでの実践を交えたチーム構築などを、堅田事務局長からはスタッフとのコミュニケーション方法や労務管理などの講演内容でした。これらの講義を受けての反応として、終了後のアンケートより法人が求めている役割や心構えを理解することができたという意見が多く挙がっており、大変好評を得て終了することができました。

その他、各部門からの実際の業務説明や役割の説明、接遇の講義、人事考課の演習が行われ、より具体的なサブマネの役割が理解できたようでした。

研修終了の最後には、全参加者が今後サブマネとして取り組んでいくことを「1分間宣言」として発表しました。4月からの実践にむけた意気込みをきくことができ、頼もしく感じました。以下に新任サブマネ研修を受けての感想を2つ紹介したいと思います。

After completing the training for newly appointed sub-managers

研修を受けて



就職してから、年々回復期における看護師のサブマネの仕事内容・必要性も徐々に理解し、協力するように努めてきました。

今回の研修で、さらにサブマネの必要性と当院での役割を学ぶことができました。実際に人事考課のシミュレーションを行ってみて、難しさを体験することも出来ました。

4月からサブマネとなり、不安に感じることもありますが、今回の研修での学びを活かし、良いチームを作れるようにしていこうと思います。



サブマネに任命された際は戸惑いが大きく、自分に出来るだろうかと漠然な不安がありましたが、研修を受けてより良いチーム作りのためにサブマネとして出来る事を一つずつ行っていこうと思いました。

患者さまとご家族が、再び地域で輝いて生活するために全力で支援する環境を整えられるよう、輝生会の強みであるチームアプローチをより円滑に行うために、周囲へ働きかけていきます。

最後に

After completing the training for newly appointed sub-managers

当法人には、現在129名のサブマネが在籍しており、全職員数の約1割を占めています。

サブマネは、当法人では中核をなす大事な立場となっています。というのも、サブマネとは現場における最前線の小隊長的な立場にあり、部下であるスタッフと上司である管理職との間に入り、現場の意見を上に伝える一方で、法人の方針や考えを部下に噛み砕いて伝達し実践に活かしてもらうことが求められる立場だからです。

また一番身近な相談相手として部下の思いや悩みを受け止め、適切なアドバイスを提供する大事なポジションです。大変な役割ですが、その分やりがいを感じることも多くあると思います。

今回の研修で得た知識と心構えを礎として、4月から活躍してくれることに期待したいと思います。

文責/本部教育研修局 部長 池田吉隆

128名が入職しました

直前に降った大雪にも負けることなく桜が満開に咲き誇った4月1日、輝生会では新入職員128名を迎える入社式が行われました。



本年度は医師:2名、看護師:38名、介護福祉士:9名、理学療法士:36名、作業療法士:23名、言語聴覚士:12名、社会福祉士:3名、ケアマネジャー:1名、栄養士:3名、事務:1名が新しい仲間になりました。

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響により、入社式は新入職員の安全を考慮して「3つの密(密閉、密集、密接)」とならないよう配慮され、初台リハビリテーション病院と船橋市立リハビリテーション病院とに分かれて執り行われました。これから共に働く仲間たちと一同に会しての入社式は叶いませんでしたが、それでも参列する新入職員の姿からは緊張の中にも喜びにあふれた思いが伝わってきました。

入社式終了後はすぐに研修が開始されました。研修の講義は、TV会議システムを利用して両病院に配信されます。石川会長の講演では、リハビリテーションの歴史やリハビリテーションマインド、輝生会設立への思いなどが職員に伝えられました。水間理事長の講演では、これから始まる業務全てが輝生会の理念・ノーマライゼーションの精神に基づいていることや、輝生会の事業の3本柱「回復期リハビリテーション、在宅総合ケア、地域包括ケア」について伝えられ、お二人の熱い思いの込められた講演に新入職員も熱心に聞き入っていました。



さらに、今後5日間の研修で「医療安全」、「感染対策」、「個人情報保護」、「接遇」、「現場での具体的なリハケア技術」など、輝生会職員として必要な基本をしっかりと学ぶこととなります。社会人として輝生会職員らしく成長していくことでしょう。

2020年度も、輝生会は新入職員を含め1,400名の職員がスクラムを組み患者さま、利用者さま、ご家族さまのために全力で努めて参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。